小笠原

編集兼発行
公益財団法人 小笠原協会
東京都港区海岸１-12-２
竹芝客船ターミナル２階
電　話 03－3432－4921
ＦＡＸ 03－3432－4487

振替貯金口座(郵便)
00190－９－64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

新年のご挨拶

小笠原協会　会長　渋井　信和

小笠原旧島民・島民の皆さま、賛助会員をはじめ小笠原に係わられるすべての皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、一年の世相を表す漢字に「災」が選ばれたように、災害の多発した一年でした。

夏から秋にかけて毎週のように日本を襲った台風、北海道や大阪で発生した大きな地震、西日本などの各地で発生した豪雨水害など、まさに災害大国ニッポンを地で行くような年でした

幸いにも小笠原におきましては大きな被害はありませんでしたが、本年こそ、世相を表す漢字は人々が平和で幸福な一年であったと思えるような漢字であって欲しいと願うものです。

一方、昨年は小笠原返還50周年の佳節であったことから、多くのマスコミに小笠原の自然や観光、歴史等が取り上げられ、小笠原が脚光を浴びた年でありました。

当協会におきましても、返還記念日である6月26日に都内で返還50周年記念式典を開催いたしました。ここでは、小笠原諸島が返還される一週間前に都庁の担当者としてパスポートをもって小笠原へ赴き、返還業務に奔走された長谷川馨氏（当協会顧問）、返還後の小笠原村政を兼務していた東京都小笠原支庁で復興業務に尽力した当時の星野総務課長（同顧問）や神藤村民課長（同顧問）などの回顧談が披瀝されました。

さらに、11月27日には「硫黄島と小笠原をめぐる日米関係」の著者でもある元大阪大学大学院准教授ロバート・D・エルドリッヂ氏を講師としてお招きして、小笠原返還をめぐる日米関係をテーマに講演会を開催いたしました。

これには一般参加者を含む60人以上の小笠原関係者が参加され、米国の外交秘密文書を綿密に調査研究した同氏の講演に参加者は真剣に耳を傾けておられました。

さて、本年は小笠原諸島の振興開発に大きな役割を果たしてきた小笠原諸島振興開発特別措置法の期限が切れる年であります。

私も委員として議論に参加してまいりました小笠原諸島振興開発審議会は、昨年8月に、平成31年度以降も引き続き特別措置を講じ小笠原諸島の振興開発を積極的に推進する必要がある、との意見を国土交通大臣に対して具申いたしました。

特別措置法が延長されるよう強く願うものであります。

次に、毎年、実施してきました小笠原訪問交流ツアーが本年で第20回を迎えます。

観光客が少ない11月にも小笠原への観光客を増やし島の経済発展に貢献しよう、との目的で平成12年から始めた当事業も開始以来19年を経た現在では観光客数も当時の1.5倍となり、訪問ツアーを取り巻く状況も大きく様変わりしています。

そこで、20回目となる本年の交流ツアーの実施については、小笠原海運や小笠原村とも協議し、改善を図って参りたいと思っております。

次に、小笠原の返還50周年を迎える2、3年前から、小笠原を研究する研究者の皆さまから、当協会が発刊している「特集号」などへの関心や問い合わせが増えてきました。

また、前述したエルドリッヂ氏の講演においても、同氏から小笠原研究の必要性が訴えられました。現在、多くの研究者の皆さまがそれぞれの立場から小笠原研究を進められております。一方、当協会では創立以来、時々の課題への対応の記録や強制疎開された方々の証言を取りまとめてまいりました。今後は、研究者の方々との連携を模索し小笠原研究が進展するよう努めてまいりたいと思っております。

関係者の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとりまして幸せな一年となりますようご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

東京都知事　小池　百合子

新年明けましておめでとうございます。

今年は、5月の改元を控え、我が国にとって新たな時代が幕を開ける節目の年となります。この記念すべき新しい年が小笠原の皆様にとって、希望に満ちた幸多き年でありますよう心からお祈り申し上げます。

小笠原協会の皆様が、日頃から旧島民の皆様の帰島相談や援護活動、また、小笠原を愛する多くの人たちとの交流を深める小笠原交流ツアーの企画などを通じて、小笠原の振興に多大な貢献をされていることに心より感謝申し上げます。

昨年の小笠原諸島返還五十周年では、記念式典やさまざまな記念事業が実施され、小笠原諸島の歴史や自然、国境離島としての地理的重要性が、広く都民・国民に再認識された年となりました。

私は、記念式典などに出席するため、二年ぶりに父島を、また、初めて母島を訪問いたしましたが、それぞれの島で、多くの村民の皆様に温かくお迎えいただくとともに、パレードに参加させていただくなど、返還五十周年の喜びを肌で感じることができました。また、父島と母島の間の往復は、ははじま丸に乗船させていただきましたが、漁船によるお迎えやお見送りをして下さり、心から感動いたしました。今回の訪問を通じて、小笠原が豊かな自然と活気に満ちた素晴らしい島々であること、まさに「宝島」であることを改めて実感いたしました。

東京都では、返還から現在に至るまで、小笠原諸島振興開発特別措置法に基づき、五年ごとに小笠原諸島振興開発計画を定め、道路・港湾などの基幹的な施設整備を重点的に進めてまいりました。同計画は、「生活の利便性の向上」、「地域特性を生かした産業振興・雇用拡大」、「自然環境の保全・再生」の三つの方向性を基本とし、多くの課題を解消しつつ着実に推進されてまいりました。

しかし、本土との交通アクセスの改善や生活基盤の整備、島内産業の活性化など、依然として解決すべき多くの課題が残っています。

現行の小笠原諸島振興開発特別措置法は、平成三十年度末をもって失効いたしますが、東京都は、昨年五月に、国及び小笠原諸島振興開発審議会に対して法の延長を要望いたしました。その後、同八月には同審議会から国に対して法を延長すべきとの意見具申がなされました。東京都は、引き続き、住民生活の安定・福祉の向上、定住の促進を図り、小笠原諸島の自立的発展に向けた施策を展開するため、今後も法の延長が実現するよう国に働きかけてまいります。

航空路につきましては、島民生活の安定と、国境離島である小笠原諸島の自立的な発展、さらに村民の皆様の安心・安全を守るという観点から、小笠原に飛行場を建設することは必要だと認識しております。

現在、これまで検討してきた洲崎地区活用案、硫黄島活用案、水上航空機案の中で、より実現性の高い案として、洲崎地区活用案に絞り集中的に検討を行っております。自然環境との調和など、さまざまな課題がございますが、あらゆる可能性を追求しながら検討を進めてまいります。

今後も、都民ファーストの視点に立ちながら、産業振興、交通アクセスの向上、医療・福祉等生活環境面の改善、公共施設の老朽化対策、南海トラフ地震等の発生に伴う大規模津波対策など、多くの課題に取り組み、小笠原協会の皆様方のご理解ご協力をいただきながら、豊かな自然と調和のとれた島づくりを行ってまいります。

結びに、小笠原協会の今後益々のご発展と小笠原の皆様並びに関係者のご健勝とご多幸を祈念して新年の挨拶といたします。

平成三十一年　元旦

新年のご挨拶

小笠原村長　森下　一男

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、小笠原諸島が日本へ復帰して50周年を迎えるという記念すべき年でありました。記念式典および母島記念セレモニーには、石井国土交通大臣、小池東京都知事をはじめとする多くのご来賓にご臨席を賜り、村民の皆様とともにお祝いをしたところです。また、年間を通じて行われました様々な記念事業では、各団体や関係者が力を合わせ、大いに盛り上がりを見せました。

改めて村民の皆様の郷土への誇りと愛着、そして結束力の強さに感銘を受けた次第です。

各事業にご協力いただきました関係機関および村民の皆様に、改めて深く感謝申しあげます。

さて、本年は平成最後となる年です。天皇陛下が4月30日にご退位され、皇太子殿下が5月1日ご即位され、新しい時代を迎えます。小笠原村もまた、記念事業での結束をバネに、魅力あふれる、元気で明るい未来に向けて新たな一歩を踏み出します。

次の50年に向けた最大の課題は航空路の開設です。昨年の記念式典において、小池都知事は村民の安心・安全を守る観点から飛行場建設の必要性について言及し、課題を解決しながら前に進めていく考えを示されました。村としましても、東京都の具体的な検討にこれまで以上に積極的に関わり、東京都や国、関係する方々とともに、航空路開設への道筋を見出してまいりたいと考えております。

また記念事業では、次世代を担う子供たちや若者たちの活躍を目の当たりにしました。これからも子供たちが将来への夢や希望を持ち、その実現に向けて成長し続けることができるよう、子育て支援や学校教育の重要性を改めて痛感したところです。次の50年のもう一つの大きな課題として、子育て環境や教育環境の整備・充実を着実に進めてまいります。

現行の小笠原諸島振興開発特別措置法は、この3月に期限を迎えます。現在、国による改正、延長に向けた検討作業が進められておりますが、小笠原諸島の今後の振興開発に必要不可欠なこの特別措置法が成立するよう、村としても万全を期してまいります。

硫黄島訪島事業につきましては、一昨年より係留の諸問題により上陸が叶わない状況にあるため、洋上での慰霊祭を実施してまいりました。難しい課題がありますが、一日も早く旧島民の皆様と上陸して、ゆとりある墓参と里帰りが再開できるよう、引き続き、関係機関と協力・連携して課題解決に努力してまいります。

今年は村政が確立して40周年となります。村政各分野、各事業における諸課題に一つ一つ丁寧に取り組み、村の発展に尽くしてまいりたいと、思いを新たにしているところです。

最後になりましたが、小笠原協会の益々のご発展、ご活躍にご期待申しあげるとともに、本年が皆様にとって良い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

小笠原協会主催　小笠原諸島返還50周年記念講演

「硫黄島と小笠原をめぐる日米関係」要旨

ロバート・D・エルドリッヂ博士

1 はじめに

小笠原返還40周年に著した本「硫黄島と小笠原をめぐる日米関係」の内容とそれ以降の取り組みについてお話しをしたい。この本の著作には9年を要し、私の70冊あまりの著作の中で、最も大変な本でした。

今年、小笠原返還50周年を迎えましたことをお祝い申し上げます。さて私の研究活動は沖縄研究から始まりました。博士論文のテーマは、対日講和条約にあたり、南西諸島をどのように処理したかという問題意識でした。これは3部に分けて分析している戦後沖縄の研究の第一部でした。第二部は、条約締結から返還復帰の72年まで、そして第三部は、返還から今日までの時期です。

博士論文は、2003年に『沖縄問題の起源』で出版し、本来なら、その続編になる『返還への道』を書くべきでしたが、政策決定者に早く沖縄の現在の課題を知って欲しいという気持ちで、『72年返還から2002年返還復帰30年記念までの沖縄の問題』を先に英語で書きました。（Post-Reversion Okinawa and U.S.-Japan Relations）でPDF版として刊行し、ネットで検索すれば、無料でダウンロードができます。

『沖縄返還への道』を書くにあたって、同じ状況に置かれた奄美群島や硫黄島・小笠原諸島をどう処理したか、どの過程で復帰・返還が実現できたのかを検証する必要があると気づき、博士論文を完成した1999年から取り組むようになりました。

奄美復帰50周年に合わせて、2003年に『奄美返還と日米関係』を、そして小笠原返還40周年に合わせて、2008年に『硫黄島・小笠原をめぐる日米関係』の本をそれぞれを出版しました。奄美、小笠原、沖縄は日本から分離されたことは共通していますが、それ以外はほとんど全部違っていました。ところで、ちょうど10年前、小笠原の本を完成して、そろそろ沖縄返還の研究を始めようとした時、資料の中に尖閣諸島関係のものがたくさんありました。尖閣諸島の問題は、日中間の問題だと思っていましたが、米国側の公開資料の中でそこに深く米国が関係していたことが判明しました。即ち米国は、本来、潜在主権のある日本に、尖閣を含めた南西諸島の主権を認めるべきであったが、返還協定締結する前後から中立的な立場を取るようになった。私は、後に出版した『尖閣問題の起源』にそのアメリカ政府の矛盾を指摘し、批判しました。将来、尖閣の本の続編を書きたいと思っていますが、その前に、沖縄返還そのものの著作を完成しないといけない。

小笠原関係の研究ですが、返還過程の研究をし始めた20年前当時は、インターネットがまだ普及していないため、図書館に通うなど従来手法に頼っていましたが、ダニエル・ロング首都大学東京教授（人類学・言語学）が早くから作ったホームページを参考にし、かつ教授から様々な示唆を頂いた。そうした過程で、2000年夏に、小笠原研究者に一緒に小笠原へ集まろうと提案し、父島に世界から十数名の関係者が集まり、学際的に情報交換や議論を重ねた。そして2002年に『小笠原学ことはじめ』を出すことができました。

私は、日米友好関係のなかで米国が日本の同盟国でありながら、何故、日本の領土を統治・占領し続け、かつ日本と友好関係を維持できていたのかが不思議に思っており、関心がありました。また、私は上層部の意思決定者だけではなく、返還の運動に携わっていた島民などがどのように考え行動したか、そして返還にどのように影響を与えたのかなどに関心があり、一般市民から国際政治まで幅広く資料を収集した。そしてそれらが相互にどのように影響しあったのかに関心がありました。

2 小笠原諸島研究のはじめと関心

小笠原の研究では、深い研究があるとは言えず、全般的に神話的なものが多く、また諸説あり、何が真実なのか分からない。また、一般的に戦前の本は多いが、戦後のものは少ない。小笠原に関しては、戦後の欧米系住民に対する関心が高かったが、日本人のものは少なく、戦後、島民であった日本人がどのような悲しい状態に置かれていたかという資料は少ない。また小笠原はいつも不思議な島として紹介されているが、日本の一部であるという認識が大事です。

そして、もう一つの文脈は、国際政治上、小笠原は、戦略的に沖縄ほど重要ではなく、それで研究者も沖縄に比べれば、小笠原の研究の重要性が少ないと言われているが、私はそうは思っていない。小笠原諸島も戦略的に重要であり、研究も必要である。もちろん、それ以外の理由で研究の重要性もある。

さらに小笠原の返還は、沖縄返還を延ばすためのもので、あまり意味はないというニュアンスが一部にあるが、私はそうは思わない。

硫黄島研究についても、米国、特に海兵隊への関心が高く、そこに焦点が当てられている。米では、日本側への関心が少なく、人々がそこに住んでいたことをあまり知られていない。硫黄島の歴史が硫黄島戦に始まったのではなく、その前もあったし、その後もある。これからも硫黄島の研究は重要です。

米国が占領・施政権を持っていた時、日本はどう動いたのか。対応が鈍いと言われているが、実際は小笠原が分割・分離されないようにとかなり頑張った。講和条約以前は、ポツダム宣言の受理によって日本政府には発言権が全く無かった。その中で、沖縄や小笠原が分離されないように相当頑張った。

講和条約以降、何故米国が返還したのか。交渉はどのように展開されたのか、米政府の意思決定はどのようになされたのかをこの本で紹介している。後世の研究に役立てば嬉しい。

また戦時中の小笠原はどのような状況だったのか、信頼できる情報を見極めることは非常に大事である。日本政府は資料を公開していないので情報が少なく、残念なことです。日本は外交的にも良いこともたくさんやっているのでぜひ公開すべきである。

米国は大量に公開している。日本1枚に対し米国は千枚～一万枚ぐらいである。日本では情報の公開が不十分であり、意思決定過程も不透明である。私は2007年に「不在の大国」という論文を出し、資料公開の問題を取り上げた。不透明にしている分だけ日本は歴史を大事にしていないことになる。日本の国際政治における地位が悪くなる。

米国は歴代の大統領の資料は膨大なものがあり、小笠原関係でも5人の関係した大統領がいる。米国には大統領図書館制度があり、建物は、大統領の故郷で募金をつのり建設しその地域の財団が管理する。図書館の中身の情報、資料は連邦政府が管理している。日本では首相官邸の情報が見えない。意思決定過程、協議や議論の経過がみえてこない。日本でもやるべきである。そうしなければ、日本の歴史は、外国の資料によって書かれてしまう。

3 私の調査研究の方法

手元にある一次資料のコピー（政府、軍、団体、個人、海軍資料、米国国立図書館、大統領図書館資料等）は小笠原村教育委員会に全て寄贈しました。私は現場を重視する研究者です。現場主義が私の誇りである。父島、母島、硫黄島、ハワイ、サイパン、グアムにも行き、数多くの関係者の方々から話しをきいて回った。この一次資料の収集には、時間とお金もかかる。多くの人に役立ててほしいので、寄贈した。二次資料（第三者が書いたもの）もあります。

4 日本領土への経緯

小笠原諸島の発見の歴史については、当初は日本も関心が薄かったが、それ以上にイギリス、米は関心が薄かった。その後日本はうまく対応して欧米系住民の関係者の了承を取り付け、最終的に日本領になった。これが逆であったら歴史は大きく変わっていた。

5 硫黄島の激戦

硫黄島は米国の作戦が遅れたために被害が大きくなっていった。現地では1994年夏早くやろうとしたがワシントンではもっと準備してからと、意見の食い違いから後手になってしまった。栗原中将の来る前にもっと早く攻めていれば双方の被害も少なくて済んだ。このことは私にとって大きなショックでした。

米軍の間では、日本人を尊敬・理解していた事実があった。日本兵が持っていた家族写真や人間らしい振る舞いに、より激しい戦争の中でも日米には人間的な場面があった。

栗林中将関係の本や映画で注目を集めた。また堀江芳孝の「闘魂　硫黄島戦」の本にも人生・生き方が描かれている。私が堀江少佐の回顧録を英訳し、アメリカで2011年に刊行した。

6 戦後硫黄島分割の危機

吉田茂総理や外務省が領土分割阻止に大いに頑張った。米国務省は戦後の日本との友好関係を保つ事や、戦争による領土拡大はしないという大西洋憲章に基づき、米軍部の要求を弱めた。結局、潜在主権という概念が1951年に生れ、日本は南西諸島、南方諸島に対して潜在主権があるが、米政府は、施政権を持つという。この方針で、1953年に奄美群島が返還され、小笠原や沖縄の返還の可能性を示唆した重要な前例になった。

ところで、潜在主権は北方領土問題にも適用できる概念だと思っている。当てはめて、日本に潜在主権があると認めれば、施政権は一定の期間ロシアが持つという、この方法もひとつである。

かつて日本人が小笠原に入れなかった理由は、当時は冷戦の真最中であり、米政府は奄美返還の際、「沖縄と小笠原は現状維持」とする方針をとっていた。帰島を難しくさせたのは56年に核を父島に配備するようになり、警備やスパイの問題があり外部の帰島は無理だった。帰島の代わりに補償問題もありました。墓参も20年近くもできなかった。その後、北方領土での墓参があり、小笠原での墓参もという流れがあった。

硫黄島も遺骨収集できるようになった。米国務省は日本との友好関係を保つためにも、一貫して小笠原諸島を返還したい方向だった。また、60年代には、米の沖縄統治という現状を維持することは困難であるとの判断を持っていた。ライシャワー駐日大使も軍の前で「沖縄にいる日本人の皆さん」とあえて軍部の前で呼びかけ、ここにいる人は日本人であると発言した。日本に理解のある人でした。

一方、日本が日米同盟のために積極的に行動しないと返還できないとの空気があった。ジョンソン大統領は、日本は米のために何をしているのかと発言したほどだ。1965年佐藤栄作総理は待ちの政治家と言われ動きが遅いと思われていた。しかし、1967年に「小笠原」・「沖縄」の段階的返還の方針を掲げ、68年に小笠原を、69年に沖縄を返還。

これには三木外相も大きく動いた。佐藤栄作総理は1967年に南ベトナムを訪問し、政治生命を賭けてベトナム戦争支持を打ち出した。これで米国の小笠原を日本に返そうとの意思が決まった。日本が日米同盟に積極的に貢献しないと米国は動けないと

の声に応えたものだった。そして「核抜き・本土並み」を実現した。私は、占領統治には批判的な立場だが、返還したことは評価しています。

7　硫黄島への帰島

これからは、いかに小笠原研究に貢献できるかが私の課題です。

政策的には交通の問題や旧島民の帰島問題、特に硫黄島には米軍が23年も駐在して事故なしの現状である。

島に残る不発弾の問題もあるが、日本の不発弾処理の技術は世界一である。今も遺骨収集などで島への訪問は多いが大きな事故などは起きていない。島の中で地域を限定すれば帰島は可能ではないか。帰島できないことについていろいろな理由が挙げられているが私には全部言い訳に聞こえる。戦前には硫黄島に千名以上が住んでいたので、生活の維持は可能です。帰島希望者がいれば帰れる政策を実施すべきです。

著作「硫黄島と小笠原をめぐる日米関係」の内容

（主な議論・発見）

第一章　小笠原諸島の国際関係史―発見から戦争まで―

日本の小笠原諸島への関心の薄さ

○小笠原貞頼発見の神話、欧米系の入植、ペリーの二見湾の「基地化」構想

○小笠原諸島をめぐる米英のライバル関係とその空白に入る日本

○欧米系住民の扱い

○20世紀前半の要塞化

第二章　第二次世界大戦と硫黄島

対日戦争を執行するため、ルートをめぐる議論

○硫黄島の要塞化が遅れていた段階、避難と防護の準備と作戦

○1944年夏、米軍が硫黄島を攻略しなかったこと、米軍の計画、調整と訓練 米海軍の上陸前艦砲問題とそれに伴う米軍の犠牲者の増加

○日米互いの見方（栗林や日本兵への尊敬）

第三章　第二次世界大戦中の小笠原諸島

避難と防護の準備

○墜落した米軍飛行士、虐待、殺害

○人肉食事件

○調査と戦犯裁判

第四章　対日講和条約と小笠原諸島の処理

○戦前、戦時中の戦後計画

○国務省の見解（軍の見解に近いが。）

結局、国務省が日本本土から南方諸島を分離するのに反対。国務・陸軍・海軍調整委員会（SWNCC）が日本政府によって引き上げられた島民の帰島を禁止するが、その後、陳情したいわゆる欧米系とその配偶者のみの帰島を許可した。

○対日講和条約にむけて日本政府外務省と吉田首相の努力

これに対し、米国務省は講和条約の前後、小笠原諸島を真剣に検討したが、軍（とりわけ海軍）の猛烈な反対に遭った

第五章　米海軍の小笠原統治と父島・硫黄島、1945～1968年

○欧米系島民の帰島

○日本の一部（潜在主権）でありながら、小笠原は米太平洋軍司令部（CINCPAC）の行政下に置かれる（極めて複雑な統治）

・父島で海軍施設をつくり、司令官兼軍政府代表

・ラドフォード提督の影響

・日本政府の介入は完全に止められた。

・海軍関係と住民の交流、英語教育。互いの複雑な気持ち

○返還合意と欧米系島民の吃驚

第六章　日米間の小笠原問題（1）―復帰と帰島、1952年～1957年

○米大使館と外務省の間、帰還（帰島）についての協議

○小笠原帰郷促進連盟の設立と活動

○ラドフォードが自ら介入して、SWNCCの決定の変更の反対立場を強調。（海軍と国務省の数多い戦い）

・奄美群島の返還によって、沖縄と小笠原に関して現状維持の方針が固まる

・帰島にむけて連盟と日本政府の努力

ダレスと国務省が日系旧島民の帰還を訴え続けるが、海軍は最後まで反対する。万が一、日本本土から米の基地が追い出されたら、小笠原諸島から戦う。

核弾頭の配備（1956年）によって、諸島の返還や日系旧島民の帰還を許さない米政府（海軍）の決心が一層固まる。

○帰島問題に補償で対応すべきという意識が広がる

第七章　日米間の小笠原問題（2）―補償、墓参と遺骨収集、1957年～1967年

○日本側は補償に躊躇しながら、補償方式に同意する

○日本が要請した補償金額は米国が支払う予定より上回る国防総省と国務省の調整問題（予算と提出者）、米議会の手続きと議論

補償の配分をめぐる連盟の分裂、小笠原協会の設立（福田篤泰代議士が初代会長）内部分裂のため、他の問題を統一的に取り組めなかった・墓参問題（1965年5月、1966年、1967年に実現）

硫黄島の慰霊と遺骨収集、硫黄島協会の活動

第八章　小笠原諸島の返還交渉、1967年～1968年

○日本側のイニシアティブ（とりわけ、三木外相）

○小笠原が先、沖縄は次（二段階）

・1964年の核弾頭の撤去によって小笠原諸島の戦略上の価値が低下

・米国は、小笠原諸島の返還に関して前向きだったが、世界問題に対して、多大な分野（政治、外交、経済、軍事）で、日本の更なる協力と貢献をする姿勢をみたかった。なお、条件付：有事の際の核の再配備、硫黄島の記念碑（星条旗）の維持、日本政府が小笠原返還を利用して沖縄返還の訴えや圧力を少しでも減らす材料にする。

○三木外相の訪米、佐藤総理の訪米、交渉過程（硫黄島の記念碑、核兵器の持ち込み）

・三木に対するジョンソン大使の不満、日米間の政治摩擦、ラスク長官の発言

小笠原返還協定の調印（三木の態度、ジョンソン大使が佐藤総理にその不満を漏らす）

使用した一次、二次資料及びインタビュー（講演テキストから引用）

A. 二次資料
(secondary sources)
＝日英両語で書かれている先行研究

B. 一次資料
(primary sources)
＝政府（や軍）の公開資料とその関係者の個人文書

1. 米海軍作戦史料館
(Operational Archives)
2. 米国立公文書館
(National Archives)
及び各大統領図書館
3. 外務省外交史料館
4. 米海兵隊歴史部
(USMC Historical Division)
5. 諸団体の資料（硫黄島協会、小笠原協会、沖縄協会）
6. 個人文書（日記、手紙、未発表の論文、オーラル・ヒストリーなど）

C. インタビュー
1. 米国務省の関係者
2. 米軍の関係者（硫黄島戦や海軍統治）とその遺族
3. 外務省や防衛庁の関係者
4. 帝国海軍の関係者とそのご遺族
5. 団体の関係者とそのご遺族

D. 現地調査（父島―2000年、2002年、2007～2008年、2014年・母島―2003年、2007年・2008年、2010、2012～2014年・ハワイ―複数回、その他）

エルドリッヂ研究所代表
ロバート・D・エルドリッヂ氏
昭和43年（1968年）1月23日、米国ニュージャージー州生まれ（米国籍）前職は米国海兵隊太平洋基地政務外交部次長。「沖縄問題の起源」、「奄美返還と日米関係」、「尖閣問題の起源」や「トモダチ作戦」など幅広い著書があります。小笠原諸島に関する著書は、調査、執筆に9年を要し、返還40周年に合わせて日英両語で刊行しています。
氏は、日本の国際的な地位と発言力を高めるとともに、日米関係の深化と強化に貢献する調査、研究及び提言をはじめ、経営者、教育者、政治家などを対象に、アメリカや日米関係、沖縄問題、防災の在り方や日本を取り巻く国際環境について講演・研修をされています。また、離島を含む地方創生関係の数多くの事業にも携わっています。
平成30年11月27日
東京都千代田区で開催

第19回 小笠原訪問・交流ツアー開催される

小笠原父島・母島への訪問・交流ツアー（（公財）小笠原協会企画、小笠原海運㈱主催、10月31日㈬～11月5日㈪の5泊6日）が開催された。

人口2,600人（父島　2,153人、母島456人　9月1日現在）の小笠原諸島は、昭和43年6月26日にアメリカ合衆国から返還されて今年50年を迎えた。6月には、父島で盛大な返還50周年記念式典が開催されたが、小笠原協会でも記念事業の一環としてツアーを企画し137名が参加した。

10月31日午前11時に竹芝を出発し、翌1日の午前11時に父島に到着。丸24時間の船旅だが、船の中では、それぞれがゆったりとした時間を満喫、楽しい歓談の輪が広がっていた。母島には、父島から「はじま丸」に乗り換えてさらに2時間の船旅だが、21名が参加。訪島初日は、父島、母島それぞれで、参加者と島の有志で交流会が開催された。母島では、島に在住する当協会の役員や婦人会の代表による手作りの島ずしや亀煮、島の果物でおもてなしを受けた。参加者は、料理に舌鼓を打ちながら南洋踊りや小笠原太鼓での歓迎や南洋踊りの体験サプライズに大喜びだった。父島の交流会は、船客待合所で開催されたが、踊りや太鼓、ステイールパンなどでの大歓迎会となり、ツアー参加者も大満足の交流会となった。また、父島では、祭りの期間であり、迫力ある相撲大会や圧巻のカラオケ大会、神輿などを目の当たりにできた。2日目以降は、自由時間であり、参加者は、マリンスポーツや山歩き、戦跡ツアーなどを楽しんでいた。

このツアーは19年前に、小笠原村と小笠原協会、小笠原海運や関係機関が協力して小笠原諸島の観光・産業等の振興のため、当時、観光客の少ない11月に毎年1回開催しており、好評を博してきた。ツアー開始当時、小笠原諸島には年間2万程度の入込客数だったが、現在では世界自然遺産登録やおがさわら丸の新船就航効果などにより、3万人と1.5倍になっている。協会では、これらの変化を踏まえ、小笠原村、小笠原海運と今後のあり方を検討することとしている。

母島　交流会

大神山神社　カラオケ大会

母島交流会 南洋踊り体験

謹賀新年

公益財団法人　小笠原協会

会　長　渋井　信和
常務理事　菊地　輝雄
理　事　岡　小枝子
〃　岡部　一郎
〃　菊池　勝貴
〃　谷川　浩也
〃　森下　一男
〃　森田　裕一
監　事　鈴木　茂
〃　内田　峰夫
評議員　石井　正則
〃　稲垣　政孝
〃　菊池　武博
〃　佐々木日出子
〃　佐藤　洋美
〃　寒川　蔵雄
〃　高崎　秀之
〃　田代　義一
〃　中村　益美
〃　鯰江　満
〃　水野　勇
〃　若澤　美義
事務局次長　塩谷　好広

謹賀新年

小笠原村商工会

〒100―2101　東京都小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二六六六
FAX　〇四九九八―二―三一四二

会長　築舘俊一
副会長　打込由美子
〃　瀬堀ロッキ
理事　山田和子
〃　赤間泰子
〃　橋本一夫
〃　宮城清美
〃　太田幸弘
〃　前田豊
〃　登地雅美
〃　福田真琴
〃　石井亮
〃　辻井麻里子
監事　森下修
〃　伯山航司

小笠原島漁業協同組合

〒100―2101　東京都小笠原村父島字奥村
電話　〇四九九八―二―二四一一
FAX　〇四九九八―二―二六六二

代表理事組合長　菊池勝貴
副組合長　高瀬吉安
専務理事　稲垣直彦
理事　関伴夫
〃　平山剛士
〃　中島謙一
代表監事　高嶺春夫
監事　平井修

小笠原母島漁業協同組合

〒100―2211　東京都小笠原村母島字元地
電話　〇四九九八―三―二三一一

代表理事組合長　平賀秀明
副組合長理事　森正博
理事　佐々木隆幸
理事　有賀正治
理事　石原義久
理事　川上信義
代表監事　木村好孝
監事　宮川辰美

一般社団法人 小笠原村観光協会

〒100―2101　東京都小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二五八七

会長　森田康弘
副会長　金子隆
理事　江口尚宏
〃　増山大輔
〃　竹澤博隆
〃　菊地圭
〃　片岡大志
監事　小田川辰夫
〃　佐藤博志

一般社団法人小笠原母島観光協会

〒100―2211　東京都小笠原村母島字元地
電話　〇四九九八―三―二三〇〇
FAX　〇四九九八―三―二二〇〇

代表理事　平賀洋子
副会長　門脇脩
理事　梅野ひろみ
〃　奥山隆一
〃　小関耕紀
〃　小西稔紀
〃　小林哲也
〃　向哲嗣
〃　茂木雄二
監事　早川大作保
〃　藤井

小笠原海運株式会社

本社
〒108-0023　東京都港区芝浦３－７－９
電　話　03－3451－5171㈹
ＦＡＸ　03－3451－4522
父島営業所
〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電　話　04998－2－2111

五洋建設株式会社

東京土木支店
執行役員支店長　町田周一

小笠原工事事務所
工事所長　成清友昭

東京土木支店　〒112-8576　東京都文京区後楽二丁目２番８号
電話　〇三―三八一七―八八三〇
FAX　〇三―三八一七―八八五一

小笠原工事事務所　〒100-2101　東京都小笠原村父島字奥村
電話　〇四九九八―二―二三一三

鹿島建設株式会社

東京土木支店
常務執行役員支店長　風間優

硫黄島工事事務所所長　網野秀生

東京土木支店　〒107-8477　東京都港区元赤坂一―三―八
電話　〇三―三四〇四―五五一一（大代）

硫黄島(事)入間事務所　〒350-1305　埼玉県狭山市入間川四―二四―一六
電話　〇四―二九五四―六〇四六（代）

杉田建設興業株式会社

代表取締役社長　岡部一郎
小笠原支店長　沼田行夫
小笠原副支店長　高橋金光

本社　〒264-0017　千葉市若葉区加曽利町一〇一八
電話　〇四三(二三一)四八七四(代)
FAX　〇四三(二三一)四八七六

小笠原支店　〒100-2101　東京都小笠原村父島字清瀬
電話　〇四九九八―二―二二一六
FAX　〇四九九八―二―二二六七

株式会社　オー・シィ・エフ

代表取締役　鮏江慎二

〒100―2101　東京都小笠原村父島字奥村
電話　〇四九九八―二―二三四（代）
FAX　〇四九九八―二―二三六六

環境保全株式会社

農業土壌分析所・地質調査・建設業・飲料水分析
環境計量証明事業・作業環境測定機関・放射線測定
ダイオキシン分析・一級建築士事務所・温泉成分分析業

ペンション扇浦

〒100-2101　東京都小笠原村父島字扇浦
代表取締役　奥山弘史
電話　〇四九九八―二―三三五五

東京本社　〒192-0045　東京都八王子市大和田町二―四―一四
電話　〇四二―六六〇―五九七九（代表）
東京支社・九州支社・北陸支社・名古屋営業所・大阪営業所

司法書士　玉井事務所

〒105-0014　東京都港区芝三ノ十六ノ一
電話　〇三―三四五一―四三六四
FAX　〇三―三四五一―四二三〇

玉井由紀則

日章建設株式会社

代表取締役　宮川正義

本社　〒100-2211　東京都小笠原村母島字元地
電話　〇四九九八―三―二二五七

父島営業所　〒100-2101　東京都小笠原村父島字奥村
電話　〇四九九八―二―二五七〇

東京支店　〒108-0014　東京都港区芝五―二七―三
電話　〇三―三四五七―〇四〇一
芝ハイツ四〇六号

小笠原みやげ・医薬品 資生堂・カネボウ化粧品

なんでも館

アサヒ産業株式会社

〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電話〇四九九八―二―二八一一（代）

一般社団法人 硫黄島帰島促進協議会

顧問　三宅正彦
顧問　大澤博紹
相談役　奥田暁一
会長　髙橋猛次
副会長　佐々木髙治
副会長　麻生憲司
副会長　伊藤謙一
理事　新井三雄
理事　楠明博
理事　宮島清美
監事　森田貢
監事　齋藤信治
庶務　福島文雄

〒105―0015　東京都台東区東上野一丁目８番２号
オーイズミ東上野ビル９階
電話　〇三―五八一七―四二三〇
FAX　〇三―五八一七―四二三六

株式会社　共勝丸

代表取締役　鶴岡英勝

本社　〒986-0853　宮城県石巻市門脇字青葉西六十五番地
電話　〇二二五―九五―〇七六三

東京営業所　〒104-0054　東京都中央区勝どき五―十二―九
電話　〇三―三五三三―二六七一
FAX　〇三―三五三三―二六七二

小笠原出張所　〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二三九〇

最新の運航スケジュールは、ホームページでご覧いただけます。
URL　http://www1.odn.ne.jp/kyoshomaru/

建築・土木施工一式

小笠原興発株式会社

取締役会長　山崎止
取締役社長　中山雅章

〒100-2211　小笠原村母島字元地
電話〇四九九八―三―二二五〇
FAX〇四九九八―三―二二四八

㈱小笠原マリン

ヤマハボートヨット・船外機・遊覧船
グラスボートコーラルシー・釣具・
漁具全般・機械修理

代表　菊池順

〒100-2101　小笠原村父島字東町
TEL〇四九九八―二―二九一七
FAX〇四九九八―二―二九一六

謹賀新年

伊豆七島・小笠原諸島の金融機関

七島信用組合

理事長　土井　実
小笠原支店長　平林　宏行

本部・本店　〒100-0101　東京都大島町元町四―一―三
電話　〇四九九二―二―一六六一
小笠原支店　〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―七四一〇

社会福祉法人

小笠原村社会福祉協議会

会長　菊池　聰彦
副会長　稲垣　直彦
副会長　平賀　洋子

〒100-2101　東京都小笠原村父島字奥村
小笠原村地域福祉センター内
TEL〇四九九八（二）二四八六
FAX〇四九九八（二）三四〇〇

東京島しょ農業協同組合
小笠原父島支店・小笠原母島店

代表理事組合長　菊池　勝男
常勤理事　早川　保
非常勤理事　清水　良一
監事　小田川　明子
運営委員　笹本　好幸
〃　辻　トメ子
〃　福田　真琴
〃　小松　朗生
〃　上川　耕治
〃　藤谷　明憲

〒100-2101　東京都小笠原村父島字奥村
東京島しょ農業協同組合小笠原父島支店
電話〇四九九八（二）二九三一（代）
東京島しょ農業協同組合母島店
電話〇四九九八（三）二三三二

関東運輸局指定民間車検工場

㈲小笠原整備工場

代表取締役　曽根　博義

〒100-2101　小笠原村父島字奥村
TEL〇四九九八―二―二五二四～五
FAX〇四九九八―二―三七七七
E-mail　seibi@k5.dion.ne.jp
レンタル部
TEL〇四九九八―二―二六二六
http://ogasawara-rentalcar.com/
E-mail　chichijima_@ogasawara-rentalcar.com

大昭産業株式会社
ホテル　ビーチコマ

代表取締役　沖山　誓一
チーフマネージャー　友野　裕亮

予約連絡先
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北二―二〇―六―四〇一
TEL　〇三―三三三六―七七六九
FAX　〇三―三三三六―七七〇七
ホテル
〒100-2101　東京都小笠原村父島字扇浦
TEL・FAX　〇四九九八―二―二九四一
ブログ　http//blog.livedoor.beach_comber/

観光部

第七貴丸
菊池　勝貴

〒100-2101　小笠原村父島字奥村

あけまして
おめでとうございます

有限会社　丸丈

代表取締役　金子　秀雄

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話〇四九九八―二―二〇三〇

観光を通じて地域作りを目指す！

㈱小笠原ツーリスト

〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電話〇四九九八―二―七七七一
FAX〇四九九八―二―七七七四

ペンション・キャベツビーチ

〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
電話〇四九九八―二―三一三六
FAX〇四九九八―二―三二〇二

代表取締役　佐藤　文彦

小笠原

有限会社　フリーショップまるひ

★おみやげ・オリジナルTシャツ
文具・雑貨・生活用品

〒100-2101
東京都小笠原村父島東町
TEL 04998(2)2042
FAX 04998(2)2563
代表取締役　菊池　歌子

日用品雑貨・衣料・おみやげ
鮮魚・島えび

有限会社　スーパー小祝

社長　小祝　栄一

〒100-2101　小笠原村父島字東町
店　電話　〇四九九八―二―二三三七
フラワーキッチン　電話　〇四九九八―二―三七三七
自宅　電話　〇四九九八―二―二三四五

電気、給排水、衛生、空調、家電品販売、
コピーサービス

㈱ときわ

本店　〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町
TEL〇四九九八―二―三四五六（代）
支店　〒100-2211　東京都小笠原村母島元地
TEL　〇四九九八―三―二二五五

㈱小笠原ダイビングセンター
器材販売・貸出・ガイド
水中撮影・エアーチャージ
コンドミニアム・
ダイビング・ホエール・ドルフィンウォッチング

代表取締役　森田　康弘

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話〇四九九八―二―二〇二一

割烹　**ぼう家**

山下　義文

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二一三七
〇四九九八―二―二七二二

小笠原母島漁協所属

第八神徳丸
船主　佐々木　隆幸

〒100-2211　小笠原村母島字元地
電話　〇四九九八―三―二四〇八

前田商店株式会社
食料品・雑貨

代表取締役　前田　豊

〒100-2211　小笠原村母島字元地
電話〇四九九八―三―二二二一

イルカ・クジラの海へご案内
ドルフィンスイム・FUNダイビング
体験ダイビング・各種講習・水中調査
マリンコンダクターエスコート
TEL 04998-2-3824
http://www.do-escoet.com/

しろあり防除センター
イエシロアリ害虫駆除・予防・調査
(公社)日本しろあり対策協会会員 東京078
しろあり防除施工士8770号

（有）　エスコート
代表取締役　杉浦　正明

〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町
TEL 04998-2-2813　FAX 04998-2-2828

株式会社　品川建設

代表取締役　加藤　大介

〒100-2101　小笠原村父島字奥村
電話〇四九九八―二―二〇五六
FAX〇四九九八―二―二〇五八

民宿境浦ファミリー

遠藤　あや子

〒100-2101　東京都小笠原村父島字境浦四八
電話　〇四九九八―二―二五三〇

小笠原消費生活協同組合

生鮮食料品・輸入食料品等

理事長　瀬堀　ロッキ

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二一四一
FAX〇四九九八―二―三〇一二

沖山電機株式会社

代表取締役　沖山　達夫

〒100-2101　小笠原村父島字奥村
TEL〇四九九八―二―二三四四
FAX〇四九九八―二―二三四三

サクタ工務

土木工事　造成　解体

代表　作田　行啓

〒100-2101　東京都小笠原村父島字奥村二―五〇一
電話・FAX〇四九九八―二―三五三三

小笠原ガス株式会社

代表取締役　打込　嘉高

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二八一六

ガソリン・スタンド
小笠原商事有限会社

代表取締役　岸　悦子

〒100-2101　小笠原村父島字西町
TEL〇四九九八―二―二〇七

民宿　たつみ

沖山　ルリ子

〒100-2101　小笠原村父島字奥村
電話〇四九九八―二―二七五五

ボニンブルー　シマの宿　**ちどり**

島田　律子

〒100-2101　小笠原村父島字東町
電話　〇四九九八―二―二三二八
FAX　〇四九九八―二―二五三二

株式会社トマック

代表取締役　藤井　広記
常務取締役　松本　真樹

〒135-0064　東京都江東区青海二丁目4番24号
電話　〇三―六三六一―五四八五
FAX〇三―五五三〇―二九二四

帰ろう心の故郷へ！　行こう念願の島へ！！

「東京と父島を繋いで50年」 創立50周年

小笠原海運株式会社

おがさわら丸を運行する小笠原海運株式会社は、本年9月10日に創立50周年を迎え、「創立50周年を記念する一年」として様々な事業を実施する予定。価格や日程にこだわったスペシャルな旅行プランや、おがさわら丸の船内売店『ショップドルフィン』では、50周年記念限定アイテムを多数入荷予定。また、有名ブランドとのコラボ商品も登場予定。詳しくは、小笠原海運のホームページ http://www.ogasawarakaiun.co.jp/50th/ にて公開中。目が離せない1年になりそうです。

父島二見港

盛大に小笠原DAYを開催

昨年12月15日（土）に小笠原村観光局主催の「小笠原DAY」が開催されました。

小笠原返還50周年の記念とあって、会場は大盛況。また、小笠原海運は今年が創立50周年であり、その前夜祭として限定記念グッズの売り場には、長打の列が続いていました。午後4時には、竹芝に到着したおがさわら丸のお迎えに多くの人が集まっていました。また、恒例のフラや小笠原古謡のステージライブ、特産品の販売などっ客船第2ターミナルは大勢の人で溢れかえっていました。小笠原協会も、硫黄島を中心としたパネル展示で参加しました。

小笠原DAY ステージ

平成30年11月気象状況

（　）内は前年同月（父島）

最高気温	28.4 ℃（29.1 ℃）
最低気温	18.6 ℃（17.7 ℃）
平均気温	24.1 ℃（24.0 ℃）
平均湿度	71 %（74 %）
月降水量	53.0 ㎜（135.5 ㎜）

（気象庁　ホームページ）

平成30年11月中の来島者数

（　）内は前年同月（父島）

定期船 父島	1,539 人（1,634 人）
観光船 父島	780 人（812 人）
母島	462 人（481 人）

平成30年12月1日現在

（　）内は前年同月

住民基本台帳登録者数

○世帯	1,493 世帯（1,517 世帯）
父島	1,221 世帯（1,243 世帯）
母島	272 世帯（274 世帯）
○人口	2,624 人（2,648 人）
父島	2,162 人（2,167 人）
母島	462 人（481 人）

皆様ありがとうございました

～平成30年11月30日まで

▼個人特別賛助会費

▽一口

伏見　洋子　山本　静香　山本十規子
柴田　勝美　柴田　恭輔　牧野　章
牧野とし子　赤間　巌　赤間　康子
浅蔭　章代　川島　直之　田中　知己
石倉　綾子　鈴木　聡　山中統紀子
渡辺　圭子　大平カール　内田　愛佳
辻下　勝己　辻下奈緒美　辻下　廉
山口　知子　植村　郁子　正田　壮一
菅谷　治喜　今村恵美子

▼新規入会者

▽一口

渕野　健　青木　慎一　庄司　宏通
千葉　長博　矢島　利紀　土田　芙蓉
三枝　眞子　三枝　弘脊　福山　久子
木村　美絵　神田　時江　野口　雅宏
古敷谷信子　松倉　幸子　八川　浪
中野　享子　河野　正明　西川　茜
西川　幸生　後藤　孝和　岩本　陽児
岩本　真諭　野口　真希　廣瀬　美絵
樋口　薫　古川　治夫　浜脇　駿奈
安部しのぶ　柳瀬　美緒　田島　夏子
野沢　有二　中村　優維　藤里美南子

▼寄付金

▽平成31年新年号広告

（二万五千円）株式会社オー・シィ・エフ

（二万円）小笠原興発株式会社

（一万円）

小笠原ガス株式会社
小笠原島漁業協同組合
小笠原母島漁業協同
小笠原消費生活協同組合
（一社）小笠原村観光協会
（一社）小笠原母島観光協会
（社福）小笠原村社会福祉協議会
小笠原村商工会　沖山電機株式会社
割烹ぼう家　第八神徳丸
第七貫丸　菊地勝貴
東京島しょ農業協同組合
アサヒ産業株式会社
ペンション・キャベツビーチ
民宿境浦ファミリー　民宿たつみ
有限会社エスコート
有限会社小笠原整備工場
前田商店株式会社
有限会社スーパー小祝
有限会社フリーショップまるひ
㈲丸丈
株式会社小笠原ダイビングセンター
株式会社小笠原マリン
株式会社品川建設　株式会社ときわ
七島信用組合

（五千円）

小笠原商事有限会社　サクタ工務
ボニンブルーシマの宿　ちどり

▼寄付金

▽一万七千円

今村恵美子

▽一万円

有限会社小笠原整備工場
大平　京子

敬称は略させていただきます。万が一、未掲載の失礼がありましたら次号掲載しますのでご一報ください（掲載順不同）

賛助会員継続のお申し込み、お早めに！

小笠原協会の活動は賛助会員の皆様方の会費収入に支えられており、深く感謝申し上げますとともに、引続きのご支援をお願いします。また、新たな皆様にも、小笠原のファンとして賛助会へのご入会をお願いします。当協会のホームページをご覧頂くか、お電話いただければ、入会申込書を送らせていただきます。

割引証明について

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、賛助会員証の写しをファックスされるか、郵送してください。また、旧島民及び関係者（ご子孫、配偶者等）の方は、おがさわら丸の割引対象です。割引証明を受けられる方は、小笠原協会にお電話ください。

31年度賛助会員更新手続き

平成31年度の賛助会員更新手続きにつきましては、本年3月頃に継続のお願いをお送りします。なお、5月の乗船割引を受けられる方は、3月早めの継続お手続きをしてください。

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

松岡　彰慶　様　88歳
平成30年6月8日ご逝去
硫黄島出身

小笠原航路時刻表

（平成31年1月～31年6月）

ハートロック（千尋岩）

運航月 時刻	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	
1月	12/29(土)	12/30(日)	12/31(月) 1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	※1 4泊
	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	3泊
	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)	
	1月18日（金）～2月1日（金）までの間、おがさわら丸はドック入りします。						
2月	2(土)	3(日)	4(月)		5(火)	6(水)	※2 2泊
	8(金)	9(土)	10(日)	11(月)	12(火)	13(水)	3泊
	14(木)	15(金)	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	
	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	
	26(火)	27(水)	28(木)	3/1(金)	3/2(土)	3/3(日)	
3月	4(月)	5(火)	6(水)	7(木)	8(金)	9(土)	
	10(日)	11(月)	12(火)	13(水)	14(木)	15(金)	
	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	
	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	
	東京発	父島着泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	4/1(月)	4/2(火)	
4月	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	
	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	
	※3 15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	
	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	
	東京発	父島着泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	
	27(土)	28(日)	—	—	28(日)	29(月)	父島折り返し
5月	1(水)	2(木)	—	—	2(木)	3(金)	
	4(土)	5(日)	—	—	5(日)	6(月)	
	東京発	父島着泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	9(木)	10(金)	11(土) 12(日)	13(月)	14(火)	15(水)	3泊
	※5 17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	
	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	
	31(金)	6/1(土)	6/2(日)	6/3(月)	6/4(火)	6/5(水)	
6月	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	※4 4泊
	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	3泊
	※6 20(木)	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	
	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	7/1(月)	

※1　12月29日、東京発便父島4泊
※2　2月2日、東京発便父島2泊
※3　久里浜寄港便。往路父島着・復路東京着ともに40分遅延到着（予定）。
※4　5月9日、東京発便父島4泊
※5　久里浜寄港便。往路父島着・復路東京着ともに40分遅延到着（予定）。
※6　八丈島寄港便。往路東京発10：00・父島着10：40。復路父島発15：00・東京着15：40分（予定）。

◎問い合わせ先　小笠原海運株式会社　☎ 03-3451-5171

さあ！母島へ行こう

母島への航路（ホエールライン）

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21km²です。島の中央に乳房山（463m）があり島の周囲は58kmあります。母島を観光される方は、**下記の時刻表でぜひ訪島してください。**

（平成31年1月～31年6月）

沖港

運航月 時刻		おがさわら丸 父島入港日		おがさわら丸 父島入港の翌日		おがさわら丸 父島出港日		ゆり丸 運航日	その他の日	運休日
運航時刻	父島出港	12:00	※はゆり丸 12:00			7:30	※はゆり丸 7:30	7:30	7:30	
	母島入港	14:00	14:20			9:30	9:50	9:50	9:30	
	母島出港	2/9～3/29は 15：00	5/18は 12：30	14:00	※はゆり丸 14:00	12:00	12:00	14:00	14:00	
	父島入港	17:00	14:30	16:00	16:20	14:00	14:20	16:20	16:00	

運行(月)(日)										
1月	7(月) ※13(日)	8(火) ※14(月)	3(木) ※10(木) ※16(水)	9(水) 15(火) 20(日) 24(木) 28(月)	12(土) 18(金) 22(火) 26(土) 30(水)	1(火) 6(日)	2(水)	5(土)	4(金) 11(金) 17(木) 21(月) 25(金) 29(火)	19(土) 23(水) 27(日) 31(木)
2月	※3(日) 9(土) 15(金) 21(木) 27(水)	※4(月)	※5(火) 12(火) 18(月) 24(日)	1(金) 7(木)	2(土) 8(金)	10(日) 16(土) 22(金) 28(木)	11(月) 17(日) 23(土)	14(木) 20(水) 26(火)	6(水) 13(水) 19(火) 25(月)	
3月	5(火) 11(月) 17(日) 23(土) 29(金)		2(土) 8(金) 14(木) 20(水) 26(火)	おがさわら丸 父島入出港(日) 父島出港 7:30 母島入港 9:30 母島出港 10:30 父島入港 12:30		1(金) 7(木) 13(水) 19(火) 25(月) 31(日)	4(月) 10(日) 16(土) 22(金) 28(木)	6(水) 12(火) 18(月) 24(日) 30(土)	3(日) 9(土) 15(金) 21(木) 27(水)	
4月	4(木) 10(水) 16(火) 22(月)	5(金) 11(木) 17(水) 23(火)	1(月) 7(日) 13(土) 19(金) 25(木)	父島出港 13:30 母島入港 15:30 母島出港 16:00 父島入港 18:00 4/28・5/5は 上記の時刻で運行		3(水) 9(火) 15(月) 21(日) 27(土) 30(火)	6(土) 12(金) 18(木) 24(水)		2(火) 8(月) 14(日) 20(土) 26(金) 29(月)	
5月	10(金) 18(土) 25(土)	11(土) 19(日) 26(日)	14(火) 21(火) 28(火)	父島出港 7:30 母島入港 9:30 母島出港 10:00 父島入港 12:00 父島出港 14:00 母島入港 16:00		1(水) 4(土) 9(木) 16(木) 23(木) 30(木)	7(火) 12(日) 17(金) 24(金) 31(金)	8(水) 13(月) 20(月) 27(月)	6(月) 15(水) 22(水) 29(水)	
6月	1(土) 8(土) 15(土) 21(金) 27(木)	2(日) 9(日) 16(日) 22(土) 28(金)	4(火) 11(火) 18(火) 24(月) 30(日)	5/2は 上記の時刻で運行 母島出港 15:00 父島入港 17:00 5/3は 上記の時刻で運行		3(月) 10(月) 17(月) 23(日) 29(土)	6(木) 13(木) 20(木) 26(水)	7(金) 14(金)	5(水) 12(水) 19(水) 25(火)	

※1月12日(土)～2月10日(日)は、ははじま丸ドッグ入りのため代船「ゆり丸」で運行いたします。（所要時間2時間20分）

◎問い合わせ先　伊豆諸島開発株式会社　☎ 03-3455-3090